府立春日丘高等学校
校 長　 福留　明富

平成 31 年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

歴史を重ねた伝統を世代を超えて発展させるため、これまで受け継いできた「自主・自律」の精神に富み、社会的責任の自覚の下で「自由」を発揮するとともに、世の中の変化に対応して既存の価値観と新しい価値観を巧みに融合し、地球的視野から主体的に行動でき、積極的かつ創造的に社会に貢献できる人間を育てる。そのため、次の理念に基づいて、下記のような学校づくりを推進する。

◎　本校における教育は、人格の完成をめざし、平和で民主的な社会の形成者として、個人の尊厳を重んじ、豊かな人間性と創造性を備えた、責任ある人間の育成を期して行う。

１．一般的な教養を高め、専門的な学問の基礎を築き、生徒の希望進路の実現を図って府民の期待に応える学習活動を築く。

２．志を高く進取の気概を持ち、豊かな人間性と伸びやかな個性を発揮する姿勢を引き出す特別活動の中で、生徒の主体性を育む伝統を引き継ぐとともに、時代に即した新たな伝統を創りあげる。

３．自ら学ぶ意欲とともに、自ら考え表現する力と豊かな創造性を備えた人間の育成を、すべての教育活動を通じて行う。

２　中期的目標

○ 伝統を引き継ぐとともに、時代の要請に応じた新たな学校づくりにも取り組むために、以下のことを行う。

①「自主・自律」の精神で、主体的に課題に取り組み創造性を発揮する姿勢を育む教育の発展。②地球的視野を持った生徒の育成に向けた教育の開発。③言語活動、理数教育、外国語教育の充実。④ユネスコスクール等の活動を核とした国際教育の推進。⑤新たな教育課題への取り組みと本校の伝統とを融合させた積極的かつ効果的な教育の追求。⑥全日制・定時制両課程間の緊密な連携による円滑な運営と教育効果の向上の探究。⑦生徒の学力ならびに教員の授業力向上のための組織的な研究。⑧既存の価値観と新規の価値観を巧みに融合して積極的かつ創造的に社会に貢献できる人間の育成に向け、経験の差を乗り越えて教員同士が相互に高め合う教員自身の意識改革。

１　一般的な教養を高め、専門的な学問の基礎を築き、生徒の希望進路の実現を図って、府民の期待に応える学習活動を築く。

ア　生徒が自ら課題設定ができ自学自習できるように、主体的な学びの姿勢を引き出して、積極的意欲的に学習取り組む力を育成する。
イ　幅広い学びの中から自らの得意を伸ばし、それぞれの進路実現ができる力を育成する。
ウ　体験的な活動や探究的な学習等を取り入れて、課題を設定し解決する力や、科学的で論理的な見方、考え方、表現力等を育成する。
エ　世界に目を向けた広い視野で自らの生き方を考える教育に取り組む。
オ　進路指導年間計画を充実させ、一層の情報提供に努めるとともに、各家庭と連携して長期的視点を持った進路指導の充実を図る。
※　授業アンケートにおいて、授業に対する生徒の興味・関心の喚起と知識・技能の定着の観点から授業を評価し、継続的な向上を図る。
※　学校教育自己診断において、「自分の学力向上」の積極的回答、平成 31 年度 82%、2021 年度 85%以上をめざす。（平成 30 年度:81.8%）
※　生徒の進路の実現を図り、京大・阪大・神大の現役入学者数 20 名以上（平成 30 年度:21 名）を含む国公立難関私大入学者数 250 名をめざす(平成 30 年度:200 名)。

２　志を高く進取の気概を持ち、豊かな人間性と伸びやかな個性を発揮する姿勢を引き出す特別活動の中で、生徒の主体性を育む伝統を引き継ぐとともに、時代に即した新たな伝統を創りあげる。

ア　「自主・自律」の精神の本校の伝統を引き継ぎ、新しい未来に向けて意欲的に活動する力を育む。
イ　さまざまな学校行事や生徒会活動の中で、協力と協働の精神を育みともに高めあう力を育むとともに、市民として公民意識の育成を図る。
ウ　生徒会活動・ボランティア活動の活性化を図る。
エ　人権尊重の意識の向上に努める。また、安全安心な学校づくりを推進し、教育相談委員会による心の支援機能を充実強化する。
※　１年次の部活動加入率 95%以上の維持を図る（平成 30 年度:98.8%)。オリエンテーション・入学式・ＨＲ等を通じての指導を継続する。
※　生徒会選挙の投票率（自主投票）85%以上を維持する（平成 30 年度：89.8%)。

３　自ら学ぶ意欲とともに、自ら考え表現する力と豊かな創造性を備えた人間の育成を、すべての教育活動を通じて行う。

ア　学力の充実を基本に置き、学習と部活動・生徒会活動・学校行事を両立させうる生徒を育成する。
イ　授業での取組みだけでなく、留学生との交流・部活動・海外研修・海外修学旅行と国際交流等の多様な機会を設けて、異文化理解や実践的な英語力の向上を図る。
ウ　ユネスコスクールの取組みを様々な教育活動において発展させる中で、世界の持続発展に貢献できる力を育む。
※　普通科高校として３年間を通じて生徒に幅広く学ばせ、６教科７（６）科目でのセンター出願の割合を平成 31 年度 70%以上、2021 年度 75%以上をめざす。（平成 30 年度：70.3%）
※　保護者向け学校教育自己診断で、生徒の自主・自律を重んじる校風に対する支持率 90%以上の水準維持に努める（平成 30 年度:94.3%)。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［平成 31 年 12 月実施分］	学校運営協議会からの意見

府立春日丘高等学校

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
１　一般的な教養を高め、専門的な学問の基礎を築き、生徒の希望進路の実現を図って、府民の期待に応える学習活動を築く。	○幅広い学びの中から自らの得意を伸ばし、主体的な学びの姿勢を引き出して、積極的意欲的に学習取り組む力を育成する。 ○各家庭と連携して長期的視点を持った進路指導の充実を図る。 ○授業改善のための取組みを積極的に推進する。	ア 小テスト等の活用で、結果の「見える化」をはかり、生徒の達成感を高めることにより、主体的かつ積極的に学習に取り組む姿勢を育成する。 イ① 学力のより高い伸長につながる教育課程の見直しをするとともに、生徒の進路希望を実現するよう国公立大学への進学者数増をめざす。 イ② サタデーセミナー（土曜講習）の内容の充実。 ウ① 充実した総合的な探求の時間等において、協力して調べてまとめ、そして発表する学習によって、ともに高めあう活動の習慣を身に付けさせる。 ウ②理科教育を推進するサイエンスツアーの実施。 エ 英語４技能の幅広い力をつけるため、スピーキングテストを取り入れる等、実用的な英語力の育成をめざした教育を構築する。 オ① 進路指導部と学年が連携して、進路選択、自己決定ができるよう情報提供と相談対応を一層充実させる。 オ② 卒業生による「藤蔭講座」の継承発展を図る。 カ 教員の授業力の向上を図るため、相互の授業を公開し、授業改善についての研究を行うと共に、外部の研修会等も積極的に活用する。	ア 学校教育自己診断「授業は自分の学力向上に役立っている」の積極的回答 75％以上。（平成 30 年:81.8%） イ① 京大阪大神大への進学者数 20 名以上を含む難関私大への現役進学者数 250 名以上。(平成 30 年:200 名　） イ② サタゼミの開講回数 10 回及び受講人数 300 人。 （平成 30 年:10 回　233 人） ウ① 学校教育自己診断「ホームルーム活動は活発だ」の積極的回答 75%以上。（平成 30 年: 75.5%）。 ウ②サイエンスツアーの参加者数 15 名。（平成 30 年：9 名） エＣＥＦＲのＢ１レベル以上の生徒（１年生）10%以上。（平成 30 年:6%） オ① 学校教育自己診断「(進路に係る）必要な情報をよく提供」の積極的回答 80%以上。（平成 30 年：83.2%） オ② 「藤蔭講座」アンケートにおける満足度 80%以上。（平成 30 年:90%） カ 教師間の授業見学を含め、各教科で研究授業の実施。	
２　志を高く進取の気概を持ち、豊かな人間性と伸びやかな個性を発揮する姿勢を引き出す特別活動の中で、生徒の主体性を育む伝統を引き継ぐとともに、時代に即した新たな伝統を創りあげる。	○「自主・自律」の精神の本校の伝統を引き継ぎ、新しい未来に向けて意欲的に活動する力を育む。 ○さまざまな学校行事や生徒会活動の中で、協力と協働の精神及びともに高めあう力を引き伸ばしていく。 ○生徒会活動・ボランティア活動の活性化等によって安全安心な学校づくりを推進する。	ア① ＩＣＴ機器の活用力の育成や情報モラルの向上を図る。 ア② 生徒図書委員会の選書活動や「図書だより」等の発行により、読書活動の充実を図る。 イ① 本校の部活動に係る活動方針に基づき、適切な休養日を設けることで、部活動を通じてより意欲的な学校生活を創り出す力を育成する。 イ② 音楽会や美書展の他、生徒の制作、表現活動を活性化する方法を一層工夫する。 イ③ 挨拶の励行と遅刻指導の更なる充実。 ウ 体育祭や文化祭等の生徒会活動を通じて、本校の歴史と伝統を感じ取るとともに、新しい歴史を築いていく自覚を持たせる。 エ① 府のスクールカウンセラーの配置を踏まえて、教育相談体制を整える。教育相談に係る情報共有に努める。 エ② 全教職員が協力して生徒理解に努めるとともに生徒の規範意識を醸成する。	ア① ＩＣＴ機器を活用したプレゼンテーションに取組む研究授業を 1 回以上実施。 ア② 学校教育自己診断の読書率向上で 40%以上。(平成 30 年: 42.9%) イ① 1 年生での部活動の加入率 95%以上。（平成 30 年: 98.8%） イ② 音楽会や美書展等の充実 イ③ 遅刻数年間 2400 回以下。（平成 30 年:2685 回） ウ 学校教育自己診断で生徒会活動や行事への主体的参画 80%以上。（平成 30 年: 86.8%） エ① 学校教育自己診断で相談対応の満足度（保護者）65%以上。（平成 30 年:61.9%） エ① 教育相談委員会を年間 25 回以上開催し、生徒の支援体制を構築する。 エ② 学校教育自己診断「話をよく聞いてくれる」の積極的回答 90%以上。（平成 30 年: 89.3%）	
３　自ら学ぶ意欲とともに、自ら考え表現する力と豊かな創造性を備えた人間の育成を、すべての教育活動を通じて行う。	○学習と部活動・生徒会活動・学校行事を両立させうる生徒を育成する。 ○留学生との交流・部活動・海外研修と国際交流等の多様な機会を設けて、異文化理解や実践的な英語力の向上を図る。 ○ユネスコスクールの取組みを様々な教育活動において発展させる中で、世界の持続発展に貢献できる力を育む。	ア① 授業、学校行事、部活動、地域や関係諸機関との連携を通して、生徒一人ひとりに生き方やあり方を探求させ、生徒の社会性を育む。 ア② 地元中学との連携の一環として、茨木市内の中学校と高校との交流サッカー大会を実施するなど、部活動等を通じて地域連携・交流・貢献の活動を発展させる。 ア③ 地元 NPO や企業との連携をさらに深め、「カス(春)ピカ」を含む茨木市内清掃活動等を引き続き取り組む。 イ① 大阪教育大、立命館大学等との高大連携の推進等、地域の教育力向上に貢献する。 イ② 海外研修、国際交流の機会を提供し、留学生交流等、実践的な英語力の育成の機会を作る。 ウ① ＮＩＥ活動を継承、発展させるとともに、ユネスコスクールの活動に取り組み、学校間のネットワークを利用した教育の活性化を図る。 ウ② 東北派遣プロジェクトの成果を継承する。	ア① 学校教育自己診断「学校へ行くのが楽しい」の積極的回答 90%以上。（平成 30 年:89.8%） ア② 地元中学のサッカー大会やチャレンジ教室等の中学生、地域向け活動を実施。 ア③ 清掃活動(カスピカ)等の継続と参加者数増。（平成 30 年:1 回、160 人） イ① 立命館大学や大阪教育大学等との高大連携による事業の展開。 イ② 姉妹校等との国際交流の他、異文化交流（JICA や留学生受入れ等）の機会を多く設ける。 （平成 30 年: 7 回） ウ① ユネスコスクール活動をより活性化して、地域との交流の機会を増やす。（平成 30 年: 6 回） ウ②東北派遣プロジェクトの継続及び参加者数。(平成 30 年 : 11 名）	